

福井県におけるニカメイチュウの発生型

友永 富・改藤真澄・福田忠夫
(福井県農業試験場)

ニカメイチュウの今後の防除に関する基礎を確立するため、病害虫発生予察観察所の予察灯や、1952年以降設置されたニカメイチュウ防除適期決定圃の誘蛾灯の中から記録の正確な23箇所を選定し、1955~57年に亘る最近3箇年間の調査資料を整理して福井県下における発生型を検討した結果の概要を述べ参考に供したい。

〔調査方法〕 石倉(1955)の方法を準用しニカメイチュウの世代数、発蛾消長の最盛期、第1化期発蛾量と第2化期発蛾量との比率の3点を基準にして発生型の類

別を試みた。

〔調査結果〕 第1表に調査地毎の発蛾の初期、最盛期、終期、第1化期発蛾量と第2化期発蛾量との比率を挙げた。これによると、福井県下ではすべて2化の発生がみとめられ、第1化期の発蛾初期は5月第4半旬~6半旬に現われ、発蛾最盛期は5月第6半旬が1地点あるのみで大多数は6月第2半旬で、発蛾終期は6月第3~6半旬である。

第1表 各地点における発蛾の初期・最盛期・終期および1, 2化の比率

予察灯設置場所	統計年	年数	1 化 期			2 化 期			1化期 2化期比率
			5%誘殺された日	発 蛾 最 盛 期	95%誘殺された日	5%誘殺された日	発 蛾 最 盛 期	95%誘殺された日	
金津(細呂木)	1955~1957	3	5.19	6. 8	6.17	7.28	8. 2	8.23	0.86
坂井(木 部)	"	"	5.22	6. 7	6.17	7.27	7.31	8. 9	1.50
川西(鶴)	"	"	5.25	6. 7	6.19	7.30	8. 4	8.24	1.25
春江(春 江)	"	"	5.22	6. 7	6.15	7.26	7.31	8.17	1.49
坂井(東十郷)*	"	"	5.20	6. 3	6.15	7.28	8. 2	8.14	1.75
松岡(五嶺ヶ島)	"	"	5.28	6. 6	6.17	8. 4	8. 9	8.26	0.24
美山(下宇坂)	"	"	5.28	6. 8	6.19	7.31	8. 3	8. 9	0.18
足羽(酒 生)	"	"	5.21	6. 7	6.17	7.27	8. 3	8.15	1.53
福井(福 井)*	"	"	5.23	6. 7	6.23	7.24	8. 1	8.24	0.98
勝山(鹿 谷)	"	"	5.17	6. 7	6.18	7.24	8. 7	8.25	0.35
大野(乾 側)	"	"	5.19	6. 6	6.14	7.28	8. 3	8.21	1.50
清水(天 津)	"	"	5.16	6. 4	6.17	7.24	8. 1	8.15	1.26
朝日(朝 日)	"	"	5.20	5.29	6.14	7.25	8. 4	8. 5	0.24
鯖江(中 河)	"	"	5.21	6. 5	6.17	7.22	8. 2	8.18	0.43
今立(岡 本)*	"	"	5.21	6. 3	6.15	7.26	8. 3	8.13	0.25
池田(上池田)	"	"	5.29	6. 9	6.28	7.20	7.30	9. 2	0.46
鯖江(舟 津)	"	"	5.20	6. 6	6.15	7.23	8. 3	8.23	0.56
武生(国 高)	"	"	5.20	6. 7	6.15	7.24	8. 1	8.13	0.49
武生(王子保)	"	"	5.20	6. 8	6.18	7.23	8. 3	8.13	1.26
敦賀(敦 賀)	"	"	5.27	6. 9	6.20	7.28	8. 9	8.22	1.01
三方(八)	"	"	5.25	6. 3	6.25	7.26	8. 6	8.25	0.51
美浜(耳)*	"	"	5.17	6.10	6.18	8. 1	8.11	8.28	1.26
上中(瓜 生)	"	"	5.23	6. 8	6.23	7.29	8. 7	8.29	0.73

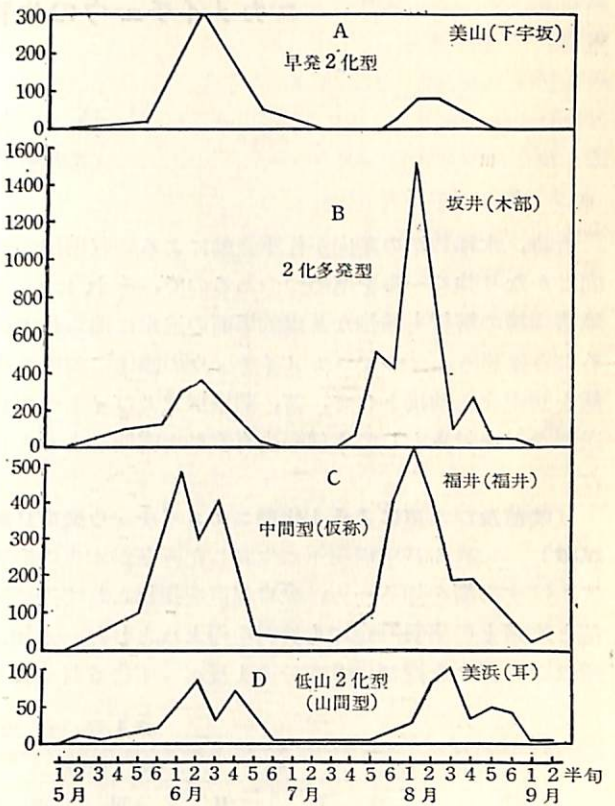
注 *湿式, 他は乾式予察灯

第2化期は発蛾初期7月第4～6半旬、発蛾最盛期7月第6～8月第3半旬にまたがり、発蛾終期は8月第2～6半旬に及び第1化期にくらべると各期ともその出現の幅がやや広く、敦賀以西の地帯では発蛾最盛期、発蛾終期がやや遅れる傾向がみられるが地域差は少ない。

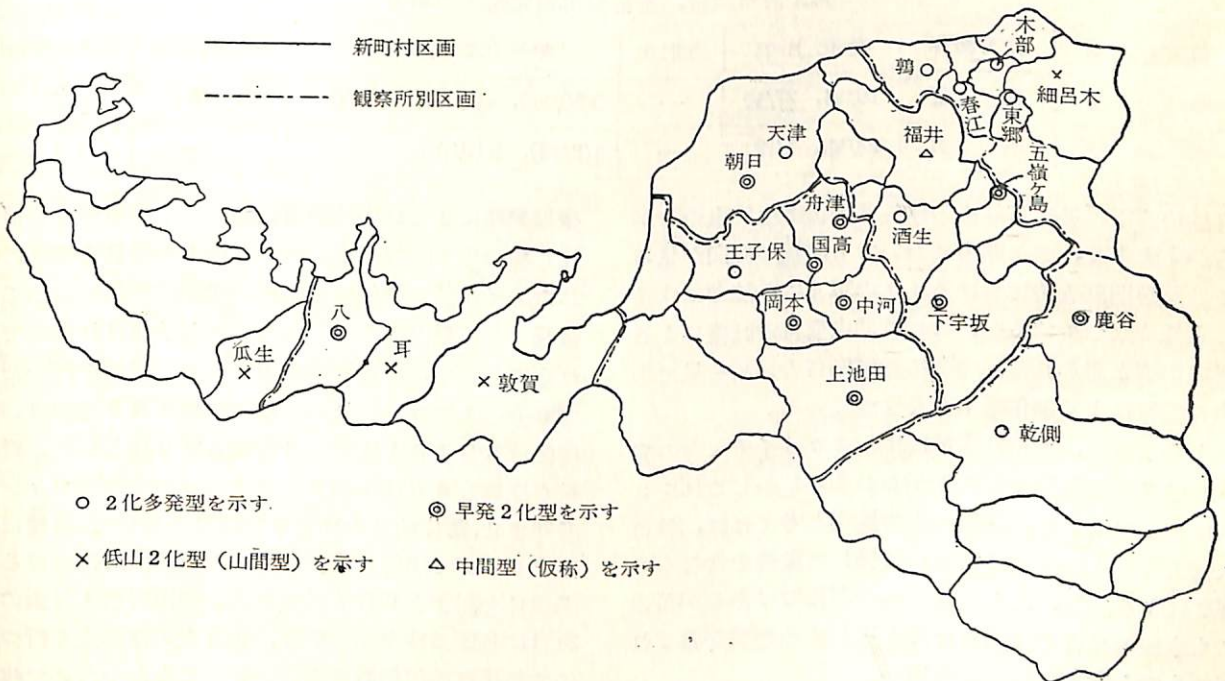
また第1化期発蛾最盛期から第2化期発蛾最盛期までの間隔は51～67日間で平均すると58日間であつた。第1化期発蛾数にくらべて第2化期発蛾数の多いところは坂井(木部)、川西(鶉)、春江(春江)、坂井(東十郷)、足羽(酒生)、大野(乾側)、清水(天津)、武生(王子保)、敦賀(敦賀)、美浜(耳)の10か所であつた。

上に述べた諸点に基づき発生型を吟味すると第1図の如く(A)早発2化型、(B)2化多発型、(C)中間型(仮称)、(D)低山2化型に類別される。

(A)に該当するのは松岡(五嶺ヶ島)外9か所で全体の44%を占め(B)が35%、(C)が4%、(D)が17%となり、従来2化多発型とされていた本県の発生型が必ずしも全県下同一発生型でなく、比率からみれば早発2化型が多いことと、第2図に示したように発生型の地理的分布をみると概して2化多発型は県北部の坂井郡下に多く分布し(その他拠点式に点在しているものもあるが)低山2化型が敦賀市以西に多くみとめられるのが特徴的である。ここで中間型としたのは早発2化型に類似し2化多発型に近い型で何れにも属しない型であるので中間型と仮称したことを断つておく。



第1図 ニカメイチュウ発生型の類別を示す模式図



第2図 ニカメイチュウの発生型の地理的分布